

2024年度学校関係者評価委員会 評価結果報告

日産栃木自動車大学校 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

2024年6月6日（木） 10：00～12：00

2. 開催場所

日産栃木自動車大学校 会議室

3. 出席者

- （評価委員） 1、委員長（業界団体・卒業生代表）青柳 洋平様（栃木県自動車整備振興会 教育技術部次長 /一級自動車工学科 第1期生）
2、委員（地域団体代表）星野 和弘様（上三川町 総務課長）
3、委員（企業・卒業生代表）星 章夫様（栃木日産自動車販売(株)営業本部 執行役員 /自動車整備科 第4期生）
4、委員（企業代表）水越 喜之様（日産プリンス栃木販売（株）営業本部 次長）

（学校事務局） 中村光之(校長)、高橋 真（教育部教育部 部長代理）、羽井野昌能（学務部 課長）川上宏美（学務部部長 / 事務局窓口）

4. 議題

- 1) 校長挨拶
2) メンバー紹介（評価委員、学校事務局）
3) 2023年度の活動振り返り
4) 意見交換

5. 論議

・項目別評価と主な意見、及び それに対する学校の受止め

認否	基準	項目	内 容
承認	1. 教育理念・目標	主な課題	・学生の多様化（日本語能力差を抱える留学生の増加。全体の学力差の拡大。学習障害等育成に課題を抱える学生の増加。等）への対応。（具体的には教育活動の中で意見交換）
		主な意見	特になし
		意見の受止	—
承認	2. 学校運営	主な課題	・FY24-26中期計画に沿って、活動を進めていくが、後述する財務上の課題に向けての施策がまだ、具体化しきれていない。
		主な意見	特になし
		意見の受止	—
承認	3. 教育活動	主な課題	・多様化する学生に向けて、夫々に見合った策を模索すると同時に、日産校ならではの教育の充実を図る。 ①増加する留学生に向けての日本語学校とタイアップした教育の充実。 ②授業態度を指標化し、精神的な問題を抱える学生等を洗い出すと同時に、教員には指導に必要な研修を実施。 ③日産校の特徴として、電動化技術の授業を強化。
		主な意見	・昔から、学習に障害を抱える学生はいたのだと思うが、社会に出て自覚することもあり、学校の中で、一定の対応ができるのであれば、良い事だと考える（水越、青柳） ・入社すれば新型車の整備が多いが、新技術の知識が乏しい人が多い。是非、学校で強化してもらいたい（水越）
		意見の受止	・学習上の障害を抱える学生さんには、自覚してもらうことが大事だと考える。適宜カウンセラーも交え対応していく。 ・新技術授業はあるが、十分体感できているかという点はまだ不十分。今後、課題として対応を検討していく。
承認	4. 学修成果	主な課題	・23年度の国家試験は、一級は全員合格できたが、二級で留学生が1名不合格となった。留学生は日本語のハードルがあり、引き続き、全員合格に向け、対策を講じていく。また、二級不合格者についても、秋の再受験に向け、学校でもフォローをしていく。
		主な意見	・二級は整備士として働く為の基本的資格であり、学校のフォローを受験申請の所からお願いしたい（青柳）
		意見の受止	・二級不合格者の再受験フォローについては、ご指摘部分を含め万全を期したい。

認否	基準	項目	内 容
承認	5. 学生支援	主な課題	・26/4月入社に臨む学生は、150名中60名が留学生と急増してきており、まだ、留学生の採用に躊躇する会社がある中、就職先の開拓が課題。
		主な意見	・今は、どこの会社も、役所でも人が採用できず困っている状況。その中で、留学生を採用しない理由は何なのか、そこに向けて学校も対策を講じていく必要がある（水越・星野）
		意見の受止	・まだ、社内やお客様の抵抗感を感じている会社もあるが、学校としても、昨年来、オープンスクールなどで留学生を見てもらう機会を作っては、そうした印象の払拭を狙っており、徐々に成果が出ていると感じている。更に活動を進める。
承認	6. 教育環境	主な課題	授業へのPC導入は進んでいるが、未だ授業内容、教員のスキルの差で、その利用率が変動する状況。引き続き、教員の勉強会等実施し、利用率を増やしていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止	—
承認	7. 学生募集・受入	主な課題	・24/3月迄3年連続入学者の目標を達成。しかし、日産学園の収支改善に貢献するにはまだ不足。日本人は、現状の員数を維持か若干増やすのがやっと。留学生で大きく増員を目指す。その為に、25/4月より、国際自動車整備科の定員を45名から90名に増やす。学校としてはこれだけの留学生を受け入れ、教育し、就職させるまでの体制を構築していく（留学生の教育については、教育活動の所で説明）
		主な意見	・日本人の入学増が難しいというが、女性や年齢の高い方の入学を増やすような事は考えられないか（青柳、星野） ・留学生の増員は、今後も継続的に見込めるという事か（星）
		意見の受止	・女性や年齢の高い方なども、入学は歓迎しているが、そこを狙っての施策は難しく、そこに注力していない。 ・留学生が多い環境は少なくも、この数年は継続すると考える。国の留学生増員計画や労働人口の減少の環境からすれば、この流れは続くと思うが、円高で日本で働く魅力の減少など懸念事項もある。
承認	8. 財務	主な課題	日産学園としては、入学生数の減少から、収益の悪化が続いており、その反転が最大の課題。 栃木校はこの数年の募集目標の達成に加え、更に一段の増員策を建てており、日産学園他校も、そうした増員策を検討中（具体的な対策については、学生募集のところで説明）
		主な意見	収益の悪化が継続する事は大きな問題だが、学校には公的な補助等はないのか（星）
		意見の受止	・残念ながら、大学のような大きな公的補助は栃木の専門学校には無く、基本自助の世界。 ただ、近年、環境改善の分野に限られるが、日産自動車が設備投資の一部を肩代わりしてくれており、厳しい財務状況の中でも、学校の魅力度の維持向上が出来ている。
承認	9. 法令等の遵守	主な課題	個人情報の保護のため、データのセキュリティ管理向上等、進めてきた。まだ、その運用が完全とはいえないため、更に運用面での整備を行っていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止	—
承認	10. 社会貢献	主な課題	特になし
		主な意見	特になし
		意見の受止	—
承認	11. 国際交流	主な課題	特になし
		主な意見	特になし
		意見の受止	—